



---

KDDI ロゴガイドライン

「KDDIブランド」は、「KDDI」という名前の下で行われるすべての活動で構成されます。

企業としてのKDDI、事業ブランドとしてのKDDI、そしてグループとしてのKDDI。

全ての社員が日々行っている企業活動は「KDDI」という名前の下に展開されており、その企業活動によってあらゆる接点でお客様が感じる価値や経験は、全て「KDDI」という名前、またはロゴに集積されていきます。

KDDIロゴに関する詳細では、「KDDI」マークを「コーポレートロゴ」として定め、全ての媒体においてブランドシンボルとしての尊厳性を守りながら、統一的に活用する為のルールを説明しています。

基本デザイン要素は、KDDIのビジョンをシンボライズした最高位のデザイン要素であり、コーポレートロゴ「KDDI」、社名ロゴ、ブランドカラーで構成されます。ブランドの信頼性を保つためには、あらゆる媒体で統一的に、効果的に展開することが必要です。

コーポレートロゴをルールに則り正しく活用し、ひと目見て「KDDIらしい」とお客様に感じて頂けるビジュアルを作成することによる、ブランドイメージの統一・向上を図りましょう。

なお、コーポレートロゴの使用にあたって不明な点が生じた場合は、以下までお問い合わせください。

2022年3月

KDDI株式会社

ブランドマネジメント部

## 1

**コーポレートロゴの種類と定義**

- 05 ロゴの種類
- 06 ロゴの使用優先順位
- 07 スローガン付きコーポレートロゴの使用方針
- 08 正式な社名表記
- 09 正式なスローガン表記

## 2

**KDDIロゴに関する定義の詳細**

- 11 全ロゴ共通\_\_ブランドカラーについて
- 12 ①スローガン付きコーポレートロゴ
- 13 ②コーポレートロゴ
- 14 ③コミュニケーションロゴ
- 15 ④社名ロゴ
- 16 保護領域と最小使用サイズ（社名ロゴなしの場合）
- 17 保護領域と最小使用サイズ（社名ロゴありの場合）

## 3

**禁止事項や特殊な例について**

- 19 全ロゴ共通\_\_使用禁止例
- 20 特殊な例\_\_看板の場合
- 21 特殊な例\_\_サインの場合（発表会・イベント想定）

## 4

**各種制作表現規定**

- 23 全ロゴ共通\_\_背景色との関係
- 24 全ロゴ共通\_\_他社との協業やコラボの関係性を示す際の表記方法
- 25 全ロゴ共通\_\_協賛案件へのブランド表記におけるロゴ使用とワード選択の考え方について

## コーポレートロゴの種類と定義

- 05 ロゴの種類
- 06 ロゴの使用優先順位
- 07 スローガン付きコーポレートロゴの使用方針
- 08 正式な社名表記
- 09 正式なスローガン表記

■ KDDIロゴの種類と使用条件

<p>スローガン付き コーポレートロゴ</p> <p>※使用範囲は、 p07をご確認ください。</p> <p>Spark Your Journey <b>KDDI</b></p>	<p>コーポレートロゴ</p> <p><b>KDDI</b></p>	<p>コミュニケーションロゴ</p> <p><b>KDDI</b></p>	<p>社名ロゴ</p> <p>KDDI 株式会社</p>
<p>企業を示す場合</p> <p>グループ会社での使用は、KDDI株式会社を示すときのみ使用可。 自社あるいはグループを示すための使用は不可。</p>			<p>社名ロゴは、デザインシステムを構成する基本的な要素のひとつです。KDDIのコーポレートロゴと組み合わせて使用することを基本とします。</p> <p>※テキスト表示を規定するものではありません。</p>

■ 下記はロゴとして存在していますが、本pdfの対象外です。

<p>KDDIグループロゴ</p> <p><b>KDDI</b> KDDI Group</p>	<p>KDDIグループ会社の 社名ロゴ</p> <p>(例)</p> <p><b>KDDI</b> KDDI Challenged</p>
<p>KDDIの出資比率20%以上のグループ会社がKDDIグループであることを示す場合。</p>	<p>KDDIの出資比率50%以上のKDDIを冠したグループ会社が、自社を示す場合。</p>

コーポレートロゴには、ポジティブ表示とフチドリ表示、コミュニケーションロゴにはポジティブ表示とフチドリ表示、ネガティブ表示があります。

使用優先順位の考え方を記載しています。ルールに則り適切な使用をお願いいたします。

使用優先順位							
ロゴの種類	<p>スローガン付き コーポレートロゴ ポジティブ表示</p> 	<p>スローガン付き コーポレートロゴ フチドリ表示</p> 	<p>コーポレートロゴ ポジティブ表示</p> 	<p>コーポレートロゴ フチドリ表示</p> 	<p>コミュニケーションロゴ ポジティブ表示</p> 	<p>コミュニケーションロゴ フチドリ表示</p> 	<p>コミュニケーションロゴ ネガティブ表示</p> 
	<p>KDDIブランドの理念や世界観を表現するため、積極的に使用しますが、スローガンの有無は次ページ(p07)にて規定します。</p>		<p>KDDIブランドの核として優先使用します。背景が濃く、ポジティブ表示では視認性が悪くなる場合は、フチドリ表示を使用します。</p>		<p>カラー表示可能な場合は、KDDIブルー（ポジティブ表示またはフチドリ表示）を使用します。</p> <p>モノクロの場合は、黒（ポジティブ・モノクロ表示）を使用します。</p> <p>①最小使用サイズが保てずグラデーションが再現できない場合 ②素材（金属、皮革等）などの問題からグラデーションが再現できない場合（ポジ・ネガ表示可能） ③その他、諸事情によりグラデーションの再現が不可能で、ブランドマネジメント部が使用を許諾した場合（ポジ・ネガはその都度判断）</p>		<p>背景が濃く、ポジティブ表示では視認性が悪くなる場合に使用します。</p>

スローガンは、そのブランドがお客さま・社会にとってどういう存在でありたいか、その理念や世界観を一言で表現したものであり、積極的に使用していきます。

ただし、掲載ロゴが小さくスローガンが見づらくなるといった視認性の問題などにより、スローガン無しコーポレートロゴを推奨する場合があります。



表示媒体 \ ログの種類	スローガン付きコーポレートロゴ <small>Spark Your Journey</small> <b>KDDI</b> <small>Spark Your Journey</small> <b>KDDI</b>	コーポレートロゴ <b>KDDI</b>
ポスター	●	
告知媒体（雑誌・新聞・OOH等）	●	
バックパネル	●	
単独協賛	●	
複数社による協賛	●	
発表会・展示会、イベント	●	
総合カタログ、サービス/メーカーカタログ等	●	
ダイレクトメール、封筒	●	
販促ノベルティ	●	
TV・動画等	●	
WEBページ・WEBページバナー	●	
プレゼンテーション資料	●	
自社使用アイテム（衣装、作業着、ヘルメット等）	●	
端末・周辺機器・取扱説明書		●
申込書、請求書、契約書		●
看板・什器（使用場所等によって判断）	●	●
施設・設備		●
他社制作物		●
その他出所表示をすべきもの		●

実際の使用の際は、ブランドマネジメント部にご相談ください。

■ 社名の表記ルール

社名を、文章中などでテキスト表記する場合、  
下記のルールに基づき正しく表記してください。

KDDI 株式会社

KDDI (株)

KDDI CORPORATION

禁止事項

kddi 株式会社 / kddi(株)

kddi corporation / Kddi Corporation

大文字、小文字の表記が異なるため。

ケイディーディーアイ株式会社

けいでいーでいーあい株式会社

日本語表記をしてはならないため。

株式会社 KDDI / (株) KDDI

前株ではないため。

### ■ スローガンの表記ルール

スローガンを、文章中などでテキストで表記する場合、  
下記のルールに基づき正しく表記してください。

Spark Your Journey KDDI

┌  
└  
半角スペース

┌  
└  
半角スペース

┌  
└  
半角スペース

#### 禁止事項

SPARK YOUR JOURNEY KDDI

spark your journey KDDI

大文字、小文字の表記が異なるため。

Spark Your Journey

KDDIの表記がないため。

スパーク ユア ジャーニー

すぱーく ゆあ じゃーにー

日本語表記をしてはならないため。

# 2

---

## KDDIロゴに関する定義の詳細

- 11 全ロゴ共通\_ブランドカラーについて
- 12 ①スローガン付きコーポレートロゴ
- 13 ②コーポレートロゴ
- 14 ③コミュニケーションロゴ
- 15 ④社名ロゴ
- 16 保護領域と最小使用サイズ（社名ロゴなしの場合）
- 17 保護領域と最小使用サイズ（社名ロゴありの場合）

コーポレートロゴを表示する際は、ブランドカラー(KDDIブルー)を指定色として使用します。

必ず、ブランドカラー(KDDIブルー)の規定を遵守し、十分な色校正を行って指定色に忠実な再現を心掛けてください。

※スローガン付きコーポレートロゴ、コミュニケーションロゴ、スローガンについてもブランドカラー(KDDIブルー)で表示します。

### ■ ブランドカラー (KDDIブルー)



**PANTONE** : 2747C

**CMYK** : C100+M90+Y0+K32

**RGB** : R14, G13, B106

正しい「KDDIブルー」を再現するために、以下の運用をお願いいたします。

#### 【印刷物・ノベルティなどインクを使うもの】

特色が使える場合は、必ず「PANTONE 2747C」インクを使用の上、発注先においてカラーチップ(色見本)による色校正を徹底してください。

#### 【WEB】

ディスプレイの種類や設定、角度など、閲覧者の環境により色のばらつきが出るのはやむをえませんので、制作者は必ずRGB(R14、G13、B106)を遵守してください。カラーチップによる色校正は必要ありません。

#### 【カラーチップの配布について】

上記の運用を徹底するため、制作物の発注が必要な部署に「KDDIブルー」のカラーチップを配布いたします。カラーチップが必要な場合は、使用用途と併せてブランドマネジメント部までご連絡ください。

本pdfから、ロゴデータを取得してはいけません。

コーポレートロゴにスローガン「Spark Your Journey」を併記したロゴです。スローガンを示す場合は、このロゴを使用します。基本は縦組みですが、スローガンを強調する場合など使用目的や使用箇所に合わせて横組みも使用可能です。

### 縦組み（基本形）



### 横組み



### 縦組み（基本形・モノクロ）



### 横組み（モノクロ）



## ■ ロゴの配置について

スローガン付きコーポレートロゴは、KDDIとしての統一感の醸成及び視認性の観点から、特別な事情がない限り、基本表示を使用し、左上隅に配置してください。スローガン付きコーポレートロゴの大きさや位置については、下図を参考にして、表示する媒体において最も効果的な表示方法を検討してください。

### ・基本表示 基本規定位置



### ・横組み 基本規定位置



基本規定位置に配置できない場合、右下隅に配置することも可能です。

## ■ スローガンの単独使用

※スローガンを単独で利用したい場合は、ブランドマネジメント部にご相談ください。

### 注意事項

- 一紙面（WEBでは1画面）につき、原則1つのコーポレートロゴを使用します。
- 例外的に複数のコーポレートロゴを使用する場合は、必ずブランドマネジメント部にご相談ください。

本pdfから、ロゴデータを取得してはいけません。



注意事項

白を基調とした反転表示は存在しません。

本pdfから、ロゴデータを取得してはいけません。

コミュニケーションロゴは、コーポレートロゴのグラデーションの再現上の制約がある場合に代替するものです。背景色やサイズ、素材などの制約がありグラデーションの再現が不可能な場合に使用します。また、KDDIとほかの要素と組み合わせたロゴにも使用します。

### ■ 主な使用例

コーポレートロゴのグラデーションが再現できない場合  
(刺繍や立体造形物など)



コーポレートロゴを最小サイズ以下で使用する場合  
(サイズの小さなノベルティなどの印刷など)



他の要素と組み合わせてKDDIロゴを使用する場合  
(ビジネスサービスロゴなど)

**KDDI Wide Area Virtual Switch**

**KDDI Labo**

### 禁止事項

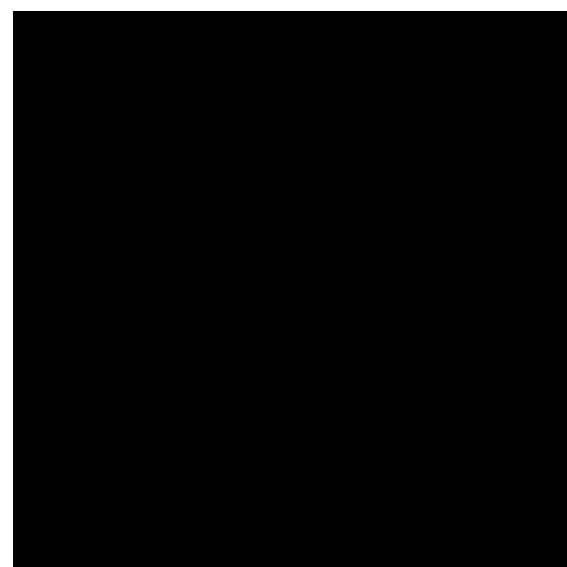
コミュニケーションロゴは、スローガンや社名ロゴと組み合わせて使用してはいけません。



本pdfから、ロゴデータを取得してはいけません。

社名ロゴは、KDDIのコーポレートロゴと組み合わせて使用することを基本とします。表示する場合は規定を遵守し、必ず電子データを使用して、忠実に再現してください。

※テキスト表示を規定するものではありません。



KDDI株式会社

KDDI  
株式会社

KDDI CORPORATION

CMYK : C0+M0+Y0+K100

RGB : R0, G0, B0

コーポレートロゴ又はスローガン付きコーポレートロゴと社名ロゴを組み合わせて表示する場合は、表示するスペース、他の要素との関係、全体のバランスなどを考慮し、以下の規定に従って正しく組み合わせてください。表示する場合には、必ず電子データを使用して、忠実に再現してください。

・コーポレートロゴ（和文）  
基準値 A



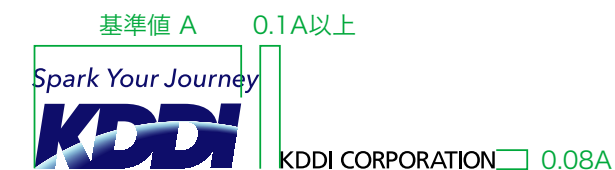
・コーポレートロゴ（英文）  
基準値 A



・スローガン付きコーポレートロゴ（和文）



・スローガン付きコーポレートロゴ（英文）



禁止事項

社名ロゴは、コミュニケーションロゴと組み合わせて使用してはいけません。



本pdfから、ロゴデータを取得してはいけません。

■ 保護領域について

KDDIロゴの表示は独立性、識別性をもって行うことが重要です。そのため、KDDIロゴを表示する際には、その周辺に一定の保護領域(余白)を設け、この領域内には原則として他のデザイン要素や文字などを表示してはいけません。以下に示したのは、確保すべき最小限の保護領域ですが、具体的な表示にあたっては可能な限り大きな保護領域(余白)を設けるように配慮してください。

※各種ロゴを表示する場合は、ここに示した数値以上の保護領域(余白)を確保してください。



・コーポレートロゴ



・スローガン付き  
コーポレートロゴ  
縦組み(基本形)



・スローガン付きコーポレートロゴ 横組み

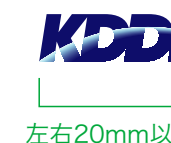


■ 最小使用サイズ

表示環境や表示条件の制約がない場合、原則として、左右20mm以上はコーポレートロゴを使用し、それ未満のサイズはコミュニケーションロゴを使用してください。

WEB/モニタの場合は左右57px以上とします。

・紙面での最小使用サイズ



・WEBやモニタでの  
最小使用サイズ



注意事項

本ルールは、コーポレートロゴとコミュニケーションロゴに適用されます。

本pdfから、ロゴデータを取得してはいけません。

■ 保護領域について

コーポレートロゴ又はスローガン付きコーポレートロゴと社名ロゴを組み合わせる場合は、表示するスペース、他の要素との関係、全体のバランスなどを考慮し、以下の規定に従って正しく組み合わせてください。

表示する場合には、必ず電子データを使用して、忠実に再現してください。



■ 最小使用サイズ

表示環境や表示条件の制約がない場合、原則として、下図を最小サイズとして、社名ロゴを組み合わせたコーポレートロゴを使用してください。

（上）紙面での最小使用サイズ

（下）WEBやモニタでの最小使用サイズ



禁止事項

社名ロゴは、コミュニケーションロゴと組み合わせ使用してはいけません。



# 3

---

## 禁止事項や特殊な例について

19 全ロゴ共通\_\_使用禁止例

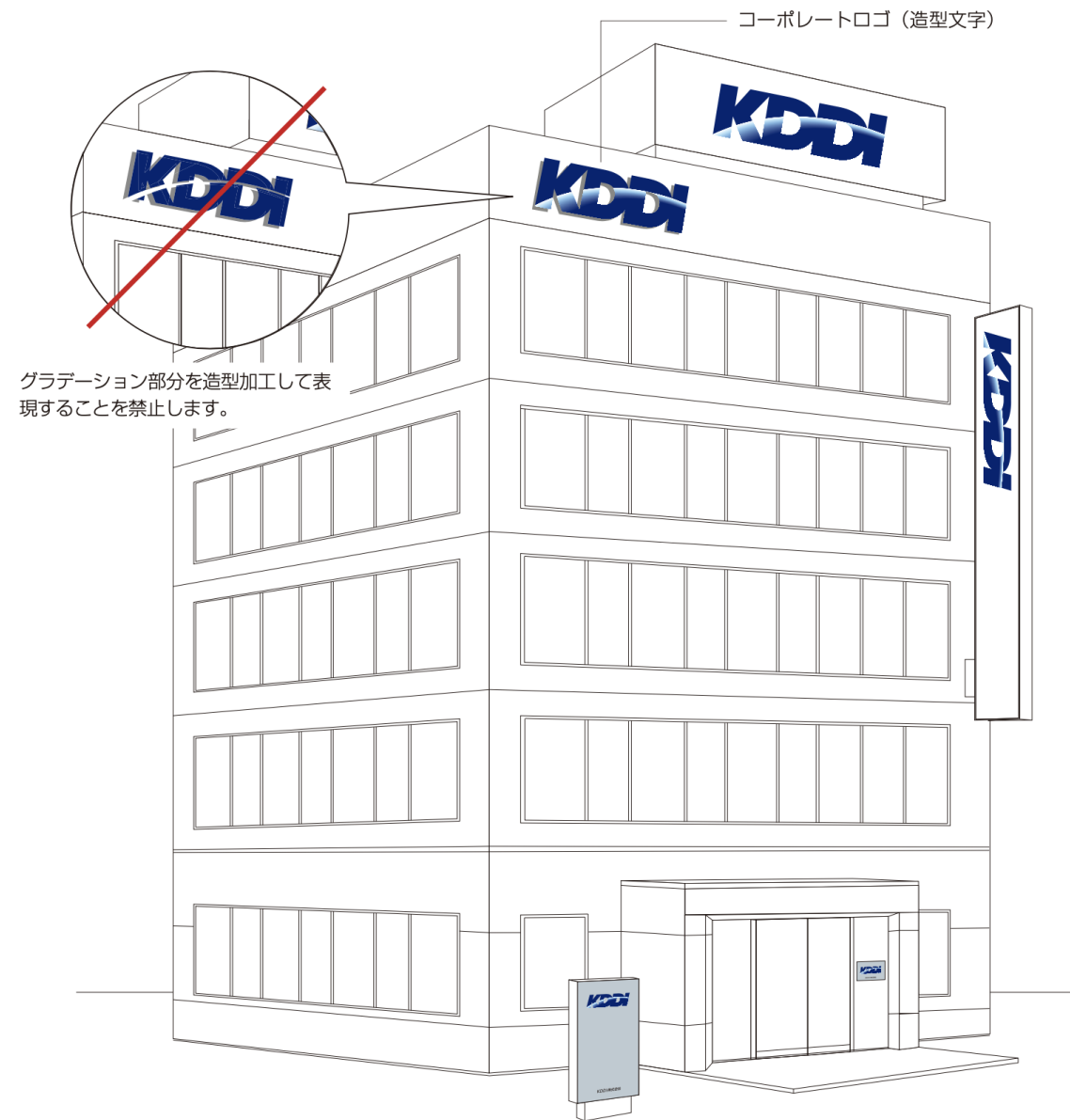
20 特殊な例\_\_看板の場合

21 特殊な例\_\_サインの場合（発表会・イベント想定）

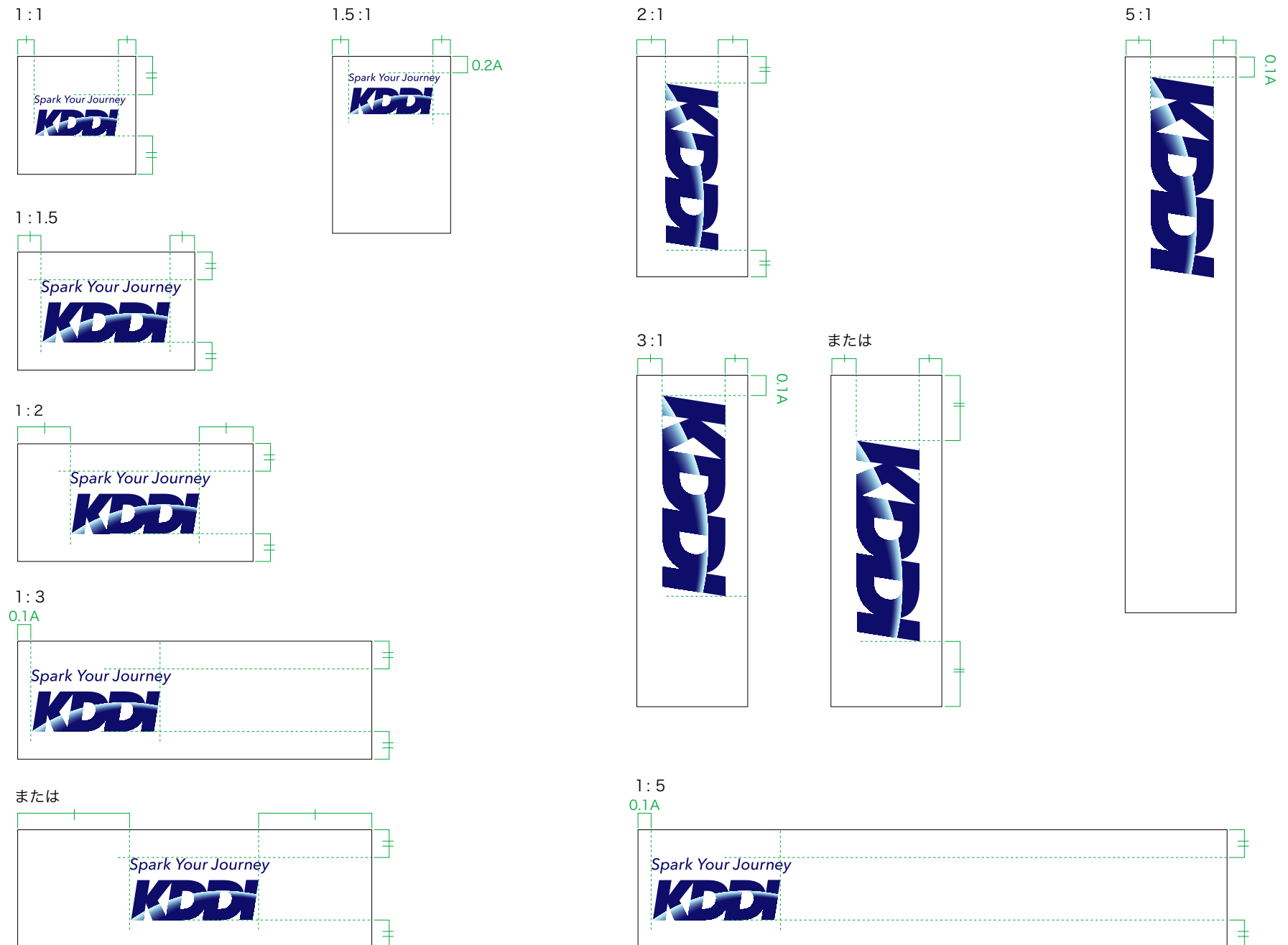
KDDIロゴ(スローガン付きコーポレートロゴ、コーポレートロゴ、コミュニケーションロゴ)は正しく使用されることによってはじめて本来の機能を十分に発揮し、KDDIのイメージを正しく伝達することができます。以下に誤った使用例を掲載しますので参考にしてください。

 <p>変形してはならない。 (縦横比率を変えてはならない。)</p>	 <p>別の書体で表示してはならない。</p>	 <p>グラデーションを変更してはならない。 (向き、幅、パターンなど)</p>		
 <p>立体的な表示や影をつけてはならない。</p>	 <p>スローガン付きコーポレートロゴ、コーポレートロゴはネガティブ表示をしてはならない。</p>	 <p>規定以外のフチドリで表示してはならない。</p>	 <p>識別性を損なう表示をしてはならない。</p>	
 <p>他のロゴやイラストと一体に見える組み合わせをしてはならない。</p>	 <p>他の要素を加えて表示してはならない。</p>	 <p>表示色を変えてはならない。</p>	 <p>規定以外の組み合わせをしてはならない。</p>	
 <p>斜めに表示してはならない。</p>	 <p>規定より接近させて組み合わせしてはならない。</p>	 <p>スローガンの書体を変えてはならない。</p>	 <p>コミュニケーションロゴとスローガンを組み合わせしてはならない。</p>	 <p>金型、造形物において、スローガンの文字の再現が困難な場合はスローガン付きロゴを使用してはならない。</p>
<p>定められたブランドロゴタイプは、<b>KDDI</b>を象徴する大切な基本デザイン要素です。文章中での使用は、デザイン</p> <p>文章中にロゴを使用してはならない。ただし、イベント名称へのロゴ使用は可。 ※ブランドマネジメント部への事前相談は必要。</p>	<p>Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit. <b>KDDI</b> ut labore et dolore magna aliqua. Ut enim ad minim</p> <p>周辺に煩雑な要素を表示してはならない。</p>	 <p>ビル屋上看板などは、スローガン付きコーポレートロゴを使用してはならない。</p> <p>スローガンの視認性に問題があるため。ただし、広告として使用する場合には、ブランドマネジメント部までご相談ください。</p>		

KDDIの看板・サインを総体的に紹介した展開例です。看板・サインの種類は、それぞれの目的・機能によって表示する要素が異なります。具体的な展開にあたっては、建物の制約や条件によって決定されますが、ここに示した例を参考に、最も適切な表示をしてください。



看板・サインについて、基準となる寸法比率を示しました。具体的に作成する際には、各看板・サインの縦横比率を参考にしてください。



# 4

---

## 各種制作表現規定

23 全ロゴ共通\_\_背景色との関係

24 全ロゴ共通\_\_他社との協業やコラボの関係性を示す際の表記方法

25 全ロゴ共通\_\_協賛案件へのブランド表記におけるロゴ使用とワード選択の考え方について



他社との協業やコラボ等の関係性を示す際は「×」又は「|」を使用してください。

何らかの事情により記号が使用できない場合は、記号なしで併記可能です。

その際、提供主体となる側の企業を原則、左側に配置してください。

ただし、当社ロゴとグループ会社ロゴを併記する場合は企業間の関係性(親子関係)を考慮し、「×」「|」ではなく記号なしの併記としてください。(例:共同発信のプレスリリース等)



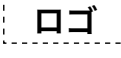
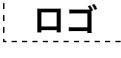



他社との協業やコラボを表現する際は、表現統一の観点から「×」「|」以外は使用しないでください。(「&」「and」「with」等)

	「×」表記	「 」表記	記号なし併記 (記号が使用できない場合、又はグループ会社と併記する場合)
他社ロゴ			
グループ会社ロゴ	<p>(NG)</p> 	<p>(NG)</p> 	

当社が協賛していることの表現を下記ワードを用いて行う場合、使用想定ケースの考え方を参考にしてください。

本ケースでのロゴ使用に限っては文中使用とみなさず、点線のロゴ位置にブランドロゴを使用することが可能です。

協賛先でワードや表現方法が統一されている場合は、その点も考慮して検討してください。

ワード	使用想定ケース
Powered by 	他社が主催、かつ、当社が技術提供をする場合
Supported by 	他社が主催の場合
Sponsored by 	他社が主催、かつ、当社が資金提供をする場合
Presented by   presents	当社が主催の場合
Produced by 	当社が主催の場合
by 	(使用しない)

### ■ 配置のルール

下線(緑のライン)に合わせて配置してください。

(「by」の「y」ではなく「b」の下合わせ)

